



現状を展望する

# 孤独から救われ、未来が変わる子どもは確実にいる ケアマネこそヤングケアラーの理解者になれる!

**学**校がヤングケアラーに気づく場として期待される傾向がありますが、祖父母のケアをしているヤングケアラーは、介護領域の専門職が気づかなければ、見過ごされてしまうという濱島淑恵さん。ケアマネでなければできない支援は何かご執筆いただきました。



執筆 ▶ **濱島 淑恵** ● 大阪歯科大学 医療保健学部 社会福祉士コース 教授、博士（学術）

はましまよしえ

研究テーマは家族介護者が抱える生活困難と支援。近年はヤングケアラーに関する実態調査に取り組むほか、2020年にはヤングケアラーたちの集い「ふうせんの会」を有志と共に立ち上げた。2020年度、国が実施したヤングケアラーに関する全国調査の研究班メンバー。2021年度、小学生等を対象とした全国調査の研究班委員長、神戸市こども・若者ケアラー支援アドバイザー、大阪市ヤングケアラーPTメンバー、兵庫県ケアラー支援に関する検討委員会座長。

## ヤングケアラーとは：定義と現状

ヤングケアラーという言葉をご存知でしょうか。最近、よく報道されるようになりましたので聞いたことがある方は多いと思います。ヤングケアラーとは、「家族のケアを担う子ども・若者たち」のことを言います。私はこれまで多くのケアマネジャーにヤングケアラーの話をしてきました。最初の反応は皆さん共通して、「私が担当しているケースにはいませんが」と即答します。もしかすると、この記事を読まれている方の中にも、そのように思っている方がいるかもしれません。しかし、「そんなはずはない」とお伝えしたいと思います。これまでの調査では祖父母のケアをしているヤングケアラーはかなりの規模でいることがわかってきているからです。

国内において、子どもを対象としたヤングケアラーに関する調査は、私が2016年、大阪府立高校の高校生5,000名に実施したものが最初だと思います。その後、2020年度に埼玉県、国が大規模な調査を実施しました。その他、現在ではさまざまな自治体が着手するようになってきました。これらの調査によって、父母のケア、祖父母のケア、きょうだいのケアを担っているケースが一定数ずついることがわかってきました。祖父母では、病気がある、高齢のため身体的な機能が低下している、認知症である等のケースが多く、父母のケアでは、障がいや慢性的な疾患を抱えている等がみられます。特に母親では精神疾患、精神障がいを、父親では何らかの依存症を有しているケースが多いという特徴もあります。きょうだいでは、障がいや慢性的な疾患を抱えている等の

しているケース、そして幼いきょうだいがいてその世話をしているケースが多くみられます。

子どもたちが担っているケアの内容はさまざまですが、いずれの調査でも「家事」が1位に挙げられており、ヤングケアラーが担う定番のケアともいえます。また、感情的サポート（なだめる、なぐさめる、話し相手になる等）も必ず上位に入りますし、見守り、外出や通院の付き添いも多く挙げられています。その他、食事、入浴、排せつの介助といった身体的介護や医療的ケアを担っているケースもあります。祖父母のケアをしている中で、仕事と介護で忙しい親に代わりきょうだいの世話をしたり、介護で疲れた親の愚痴を聞く（＝感情的サポートをする）など、複数人のケアをしているケースもあります。上記以外にも、「え？ こんなことも？」と思うようなケアもあります。例えば、書類の作成、提出が必要で、家族には相談できず、自分で必死に書いたという話や、病院や施設に行くとき医療や福祉のスタッフから伝言を頼まれ、「絶対に間違えてはいけない」というプレッシャーが負担だったという話も聞きます。「中学生だった私が『キーパーソン』にされていました」ということも聞きます。これらも広い意味でケアと言うことができ、専門職としては何気なく書類や伝言を依頼すると思いますが、それも頼れる大人がいないヤングケアラーにとっては大変な負担であることを認識する必要があります。

## ヤングケアラーは増えていく？

私はもともと高齢者の介護を担う家族、いわゆる（大人